

関市まちづくり市民会議

ジブンゴト会議

実施報告書

関市まちづくり市民会議の歩み

まちづくり市民会議（以下、市民会議）は平成 24 年からはじまり、延べ 72 件の提案が誕生しました。10 年続けてきた市民会議は、第 10 期を以って閉幕し、令和 5 年度より新しく生まれ変わった市民会議がスタートしました。

これまでの市民会議の目的は、市民の参画と協働によるまちづくりを推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための様々な事業を提案することでした。そのため、参加者の方々には、約 10 か月間にわたって、市民会議に関わってもらう必要がありました。

新しい市民会議では「もっと気軽にまちづくりに参加」できるよう、市民会議に関わる期間 3 か月程度に短縮し、複数のテーマを設け、全 3 回開催する運びとなりました。

さらに、市民会議初の取り組みとなる「無作為抽出」を取り入れ、これまで市民会議を知らなかった方々にも参加いただきました。

名称	開催期間	内容
まちづくりミーティング	令和 5 年 6 月中旬～ 8 月中旬	無作為抽出された市民の方が集まり、日頃から考えている課題について話し合います。
自分ごと化会議	令和 5 年 9 月中旬～ 12 月中旬	第 5 次総合計画後期基本計画における課題の中からテーマを取り上げ、そのテーマに関係する市民を募集します。
まちづくりカレッジ	令和 5 年 12 月中旬～ 令和 6 年 2 月中旬	関市のまちづくりに関心をもってもらえるよう、講座形式で関市の政策や計画について学ぶ機会をつくれます。

〈まちづくり市民会議の各期の提案数と採択数〉

	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期	第 5 期
提案数と 採択数	10 件 (採択 3 件)	12 件 (採択 2 件)	9 件 (採択 2 件)	6 件 (採択 4 件)	6 件 (採択 5 件)
	第 6 期	第 7 期	第 8 期	第 9 期	第 10 期
提案数と 採択数	6 件 (採択 6 件)	5 件 (採択 3 件)	7 件 (採択 7 件)	6 件 (採択 5 件)	5 件 (採択 2 件)

ジブンゴト会議

実施報告書 1

1.開催概要

名称	ジブンゴト会議(第1回)
日時	2023年9月16日(土) 14:00~16:00
開催場所	関市役所 7階 つなぐガーデン
参加者	7名 (子どもの遊び場 3名、定年後のライフプラン 4名)

2.開催内容

工夫したこと	今回が初めての顔合わせだったため、参加者同士のコミュニケーションが円滑に図れるように、自己紹介の時間と趣旨説明の時間をたっぷりとした。また、テーブルにお菓子を置くなど、話しやすい雰囲気づくりを心がけた。  会場の様子  グループトークの様子
① 導入	まず、最初に事務局側の自己紹介をした。その後、市民協働課から趣旨説明があった。 開始前に「どうしてこの会が出来たのか分からない」「何をする場所なのか?」という声が聞こえてきたので、これまでの市民会議の紹介と、今回のリニューアルポイント等をしっかり伝えた。
② 自己紹介	趣旨説明の後、自己紹介タイム。「はじめましての方」が多かったため、40分じっくりかけて自己紹介を行なった。 「B4用紙を9分割した用紙」を用意し、真ん中のマスに自分の「名前」と「呼ばれたい名前」を記入。周りの8マスには、自分の好きな「ヒト、モノ、コト」を記入し、1人ずつ自己紹介を行った。

農業	花火	なかやま きんにくん
パッション フルーツ	江坂侑 えさゆう	スマホ
家族	栄屋	和食

「9 マス自己紹介」の用紙

③ グループワーク①

その後、「理想の子どもの遊び場」「理想の定年後のライフプラン」をテーマに話し合った。

理想の子どもの遊び場では、ソフト面とハード面の2つに意見を分類した。出された意見は下記の通りである。

【ソフト面】

子どもと遊んだり、教える支援員の配置、学童の活用、保育士見守り、時間がある人が見守り、有料キッズスペース並み屋内遊園、ふれあいセンターを子供のために毎日開放、生きる力を学べる自然施設、学校で朝食そのまま遊べる、子ども食堂付公園、ごはんも食べれる、子ども手当1人につき月30万円(遊び代)、食堂でお昼が食べたい、女の子は人形で遊びたい、たまには学校へ行きたくない、先生と工作がしたい、おやつ作り教えて、絵本ライブして、駄菓子屋(自分で計算する)

【ハード面】

インクルージブ公園、ユニバーサルデザイン・多様性、ユニバーサルシート、落ちつける場所がある、バリアフリーサイン・表示の仕方 例:家族トイレ、年令別専用公園、様々な年齢の子がそべる場がある、親も時間を有効に使える仕様(カフェ等)、屋根のある運動場、エアコンの効く室内遊び場、交通の便、どろんこパーク(東京・川崎市)、雨の日でもボール遊びをしたい、全天候型、屋根付き広場、暑い日でも遊びたい、山(木)で遊ぶ(モリノス)、木の遊具たっぷり屋内遊園

理想の定年後のライフプランでは、健康的な生活や公園やカフェに集い居場所にしたいや高齢者に情報を届けるツールの重要性などについてお話しした。

チーム 定年後のライフプラン

実施報告書 2-1

1.開催概要

名称	ジブンゴト会議(第2回)～定年後のライフプラン～
日時	2023年10月11日(日) 14:00～16:00
開催場所	関市役所 7階 つなぐガーデン
参加者	4名

2.開催内容

① 導入	今回からグループに別れて行った。刃物の祭りの影響もあり、2人ほど5分、10分遅れたがメンバー全員が参加することができた。 前回参加出来ていなかった方が1名いたので、再度自己紹介をしてからのスタートだった。
② 自己紹介	まず、最初に事務局側が自己紹介をし、その後前回もいたメンバー、その後今回からの方という順番で自己紹介をした。生前整理のことをされている方で、生前整理のことで大変盛り上がった。
③ グループワーク①	その後、前回のお話とこれから行っていくことを説明した。その後、事前に調べておいた公園の利用方法について市民協働課の方から説明して頂いた。 そのことを参考にして、今後どのように前回話をした「理想の定年後のライフプラン」にしていくのかを考えた。 以下はそこで出た意見である。 地域での居場所作り ・コロナ明けの活動を再会させてほしい ・自治会ごとで集いの場をもっと設置してほしい 移動手段が限られるため、お年寄りの居場所は地域になるから ・定年後の自治会への地域デビューを促進する ・独居老人の支援を民生委員だけでなくふれまちで 地域での担い手作り ・地域委員会(ふれあいまちづくり協議会)で20代～50代向けのイベントが少ない ・若者も女性も関われる新たな自治会の形を模索してほしい

	新たな自治会の形とは？ ・電子回覧板 ・赤い羽根共同募金を年会費と一緒にする ・会費をネットで支払えるように ・会社を通して地域のイベント情報を発信 など 今のふれあいまちづくり協議会(以下、ふれまち)の課題 ・役割が明確化されていない ・排他的な組織になってしまっている →提案しても、却下。意見を聞いてもらえる雰囲気でない。 防災 ・地域の防災士の活用をし、避難訓練や避難訓練後の講座を充実させる 情報発信 ・あんしんメールをリニューアルさせてほしい →文字ばかりで見る気がしない。読めない。 イベント宣伝用の公式 LINE を別で用意してほしい 健康 ・より多くの公園に大人も使える健康器具を設置してほしい ・ラジオ体操を各地で行ってほしい →一歩を踏み出す人を増やしてほしい(地域の年齢層によるが出る杭は打たれる風潮) ・コミュニティができるスポーツ(卓球、ダンス等) →あるけど、それを伝える情報発信が足りてない。 他の話題 Q.「人生の衣替え」がなぜ出来ないのか？ A. 目の前のことで精一杯(仕事、親の会議など) 70 歳すぎると体力的に生前整理しようと思えない
--	--

	60 歳だとまだ早いという感覚がある。 →「人生の衣替え」というプラスの意味で捉えるようにしよう Q.自治体が機能しなくなる。その理由 A. 働き世代の方が時間的に関われない →仕事中に、自治会の電話が来ても対応できない →年代別で仕事を振り分ける(自分たちのできる範囲の中で行えるように) 例えば、 20 代～50 代は当日もしくは 1 日でできることを割り振る 60 代以上は時間があって単純な作業 Q.このジブンゴト会議で提案した後どうなったかの効果を教えてほしい A. 広報せきで回答を公開(審議中) 総括 理想の定年後のライフプランを考える時に、大きなテーマは「集いの場」だったと思う。そのための公園、ふれまち、自治会などの議論がされていた。定年後、地域との関係性が強くなることを考えると、自分自身の地域の居場所作りが大切となってくる。
--	---

3.総括

すでに地域で活動されている方が多く、地域との繋がりを特に意識されている方が今回の参加者さんには多い印象だった。実体験から来るものなので、説得力がある議論になっていた。また、すでに定年を迎えている方や生前整理の支援をされている方、防災に詳しい方などそれぞれの強み、得意分野を生かしながら議論できていると思う。今回、さまざまな要望が出てきたので、それをより具体的な形に持っていけるようにしていきたい。

実施報告書 2-2

1.開催概要

名称	ジブンゴト会議(第3回)定年後のライフプラン
日時	2023年11月3日(日) 14:00~16:00
開催場所	関市市民活動センター
参加者	4名

2.開催内容

④ 前回の振り返りと今回の目標	前回の振り返りについて前回の議事録を元に話し合い、今回の話し合いの目標を決めていった。今回は、資料が作成できるところまでを目標とした。   話し合いの様子① 話し合いの様子②
⑤ 話し合い	事前に、事務局で発表する用のプレゼンテーションの大枠を作っていたので、それを元に話していくことになった。 ● メンバー自己紹介 ● 概要 ● 理想 ● 現状 ● 解決策 ● まとめ 上記の目次を埋めていくことにした。 前回は、地域委員会の閉鎖感というのが話題に上がっていたが、今回は自分たち世代がどんなライフプランを描けると幸せに過ごせるのかという問いに立ち戻り考えた。自分の周りの人の課題をジブンゴト化し、仕事一筋の夫や友人のことを考え、定年後のライフプランが地域に居場所がある姿が理想なのではないかと考えた。

⑥ プレゼンテーション

そうして出てきた意見がこちらのプレゼンテーションの中に詰まっている。

理想



地域が定年後の居場所や生きがいとなること

現状

《認知の問題》
地域に市民団体/趣味サークルを知らない。
どこに行ったらサークルの情報が得られるのか分からない。
50代のうちは仕事で精一杯で先のことを考える余裕がない

《運営の問題》
気軽に団体を作れない
活動場所の確保が大変

解決策



1. 認知の拡大 2. 団体運営の支援

認知の拡大 ～HPの内容の強化～



認知の拡大 ～HP以外～



チラシやSNSなどの広報支援

ゆるく繋がるのための団体支援

※ゆるく繋がるとは、自由に入退出りできること

→団体運営の簡素化/効率化

そのために、

- ・お試しいイベントの開催支援
- ・気軽な場所提供
- ・ネットで簡単に予約ができるようにする
(せきとるネットが使いづらい)
- ・設立の支援のワンストップの窓口（センターと生涯学習課）
- ・ネット団体申請

結論

目標：地域が定年後の居場所になること

手段：1. 市民団体/サークルの認知度の向上
HPの強化/広報相談（SNS、チラシなど）

2. 団体運営の支援
ゆるい繋がりのための支援（団体運営の簡素化）

一緒に話しながら、意見をまとめた。地域に関わろうと思っても、情報が届かないという課題や、どこに行けばサークルの情報について得られるのか分からない、団体運営が大変など様々な課題を話していただいた。それを解決するために、団体登録ページの情報の拡充や気軽に団体を始められる団体支援を入れた。それを行い地域が定年後の居場所となることを目指している。これらをまとめたものを叩き台として、プレゼンテーションとしてLINEグループにて提出した。次回の前半の発表準備の際に最後の手直しをして発表を迎える予定である。

3.総括

前回とは違うところの着地点となったが、自分が定年後どう過ごしたいか、何がしたいかを考えて、プレゼンテーションを作成することができた。皆様思いが熱い方が多く、定年後のライフプランだけでなく、地域活動などさまざまなことに意識が向いていた。時間の関係上、次回の発表では、1つの提案しかしないが、その後の意見交換会でそれらについても話し合いができると良いと思う。

実施報告書 2-3

1.開催概要

名称	ジブンゴト会議(第4回)定年後のライフプラン
日時	2023年12月3日(日) 14:00~16:00
開催場所	関市市民活動センター
参加者	5名

2.開催内容

準備	最初に本日の流れを確認して、スタートした。 14:00-15:00 準備 15:00-15:20 発表 15:20-16:00 意見交換会 事前に作成した発表資料を一度おさらいして、その後付け加えたい点を挙げていき、最後ページにまとめた。地域の取り組みに関心がない人に向けてどういことをしたら良いかということやHPまで来てもらうためにどんなことをしたら良いかについて話し合った。公式LINEを使った周知の方法や市民団体自身で気軽に情報発信ができるようにする方法や、関心がない人にヒットする言葉を使って広報するなど様々なアイデアが出た。 また、最後に自己紹介のページを作るために集合写真を撮った。
	 集合写真  使用したスライド (一部)
発表	その後、14時から発表を行なった。はじめに、今回意見をいただく2つの課の担当者の方から挨拶と自己紹介があった。 その後、事務局から ・まちづくり市民会議について ・ジブンゴト会議について

意見交換会 22	・第 1 回から第 3 回のジブンゴト会議の様子 を 5 分程度で話した。その後、参加者の 1 人の K さんにバトンタッチし発表を行なった。パワーポイントや実際の HP の画面を見せながら、発表を行なった。   概要説明の様子 発表の様子（自己紹介） その後、課の担当者からの講評をいただき発表を終えた。 発表後は、意見交換会を行なった。第 2 回で出した行政への要望の資料を配布し、議論をした。発表の中では話せなかったことを他の参加者からも聞くことができた。意見交換会の議論については、議事録の中に記載してある。最後、それぞれのどのような行動に繋げていくかを確認しジブンゴト会議を締め括った。
------------------------	---

3.総括

2時間の会議を 4 回という短い時間だったが、自分たちの意見をまとめて発表することができた。このように HP を変更した方がいいということや、こんな支援があるといいなど具体的に話をすることができたので、次のアクションに繋がれそうな発表だったと思う。ただ、本当に実現させるためには、予算のことや実施体制など内部のところも担当課と一緒に議論しないといけないと思った。次回のまちづくり市民会議では、実際に協働で実施することまで出来ると良いと思った。

チーム 子どもの遊び場

実施報告書 3-1

1.開催概要

名称	ジブンゴト会議(第2回)子どもの遊び場
日時	2023年10月19日(木) 13:00~15:00
開催場所	関市役所 7階 つなぐガーデン
参加者	3名

2.開催内容

子どもと一緒に

参加者の全員が未就学児をもつ親であり、かつ子どもも一緒に参加する予定であったため、つなぐガーデンの「公園エリア」で開催した。

今回は、あえて託児せずに子どもといっしょに話し合うことを選択した。参加者の合意もあり、和やかな雰囲気での話し合うことができた。



会場の様子



子どもと一緒に参加

① 自己紹介&前回の振り返り

第1回に欠席した参加者が1名いたため、前回に倣って「B4用紙を9分割した用紙」を用意し、真ん中のマスに自分の「名前」と「呼ばれたい名前」を記入。周りの8マスには、自分の好きな「ヒト、モノ、コト」を記入し、1人ずつ自己紹介を行った。自己紹介のあとは、前回の振り返りを行った。

農業	花火	なかやまきんにくん
パッションフルーツ	江坂侑	スマホ
家族	栄屋	和食

「9マス自己紹介」の用紙



前回の振り返り(参加者作)

② 話し合い

その後、前回出た内容を深掘りするかたちで「理想の子どもの遊び場」をテーマに話し合った。その結果、下記の5項目について、アイデアを練

	ることになった。 ① ふれあいセンターの利活用 ② 児童館やふれあいセンターでワークショップ開催 ③ マーゴの中に児童館があると良い ④ 子育てチャレンジショップの開設 ⑤ 中池公園に屋根を設置してほしい 各項目で出された意見は、下記の通りである。 ③ 出された意見 ① ふれあいセンターの利活用 ・キッズスペースをもっと利活用できるとよい、もっと人の出入りが増える ・自由に入ってよいものかどうか分からないので、自由に利用できる旨を明記してほしい ・出入り自由を明記してほしい、使い方などを建物の外に掲示してほしい ・各施設で利用基準が違っている？利用基準を明示してほしい ・イベント時以外に行くと「何！？」という顔をされる・・・ ・ビーズクッション、ヨギボ、座敷やフラットな空間があるとよい ・公園が隣接するセンターについては、遊具の貸し出しがあるとよい ・自習室があるとよい(地域に勉強するところが不足している) ・本の循環ができるとよい(浪漫堂のように)、本が世代を繋ぐ ・万が一のケガがあった場合でも公共施設の保険がある ② 児童館やふれあいセンターでワークショップ開催 ・手形取り、絵を書く、キーホルダーづくり、絵本を読むなど ・リトミック、音楽、ダンスなど習い事をするまでもないが、体験させたい(月 1 回ぐらい単発で出来ると良い) ③ マーゴの中に児童館があると良い ・ママ友と集まる場所が、マーゴのフードコート。買い物も、トイレも、何もかも揃う場所で、さらに児童館があると最高。不特定多数が集まる場所なので、児童館入場の際に利用者の記名があると安心 ・土岐のイオンの中に児童館がある。保育士もいる。参考になりそう ・児童館は、有料でも良い。子ども無料、大人 800 円ぐらいの料金体系がよい
--	--

④ 宿題	・イメージとしては、武芸川の児童館をマージに ・大きい子と小さい子でエリアや時間を分けられると良い。～未満児、小学生以上専用など ・児童館は、3 館あるが、土日祝は混み混みで行く余地がない ・勉強スペース、お絵かきスペースがあるとよい(武芸川の児童館参考) ④ 子育てチャレンジショップの開設 ・本町ベースは「商業」のチャレンジなら、「子育て」のチャレンジショップがあっても良い ・食育、木育、フリースクールなど ⑤ 中池公園に屋根を設置してほしい ・強烈な日差しを避けられる屋根があると、ますます利用が進む ・年少用の遊具付近に屋根付きスペースがあるとよい ・公園内に食事ができる場所があるとなおよい ・東屋はあるが、背が高いので日が差し込んでくる(見通しが良いという利点はある) 次回までに各自情報収集を行い、発表資料を作成しようということで合意した。 各自、情報収集を行い、適宜 SNS グループに投稿する。 「中池公園に屋根を設置してほしい」という意見は、市に寄せられていないか？(市民協働課が調査する)
------	---

3.総括

子育て当事者としての意見なので、かなり説得力がある。これを目に見える形で、発表資料に落とし込むことで、ますます子育てしやすい関市が実現するかもしれない。

ふれあいセンターの利活用については、モデル地区を 1 つか 2 つ絞り込んで、今年度中に事業として展開できるとよいと感じた。

実施報告書 3-2

1.開催概要

名称	ジブンゴト会議(第3回)子どもの遊び場
日時	2023年11月9日(木) 14:00~15:30
開催場所	関市役所 7階 つなぐガーデン
参加者	3名

2.開催内容

子どもと一緒に

参加者の全員が未就学児をもつ親であり、かつ子どもも一緒に参加する予定であったため、つなぐガーデンの「公園エリア」で開催した。

前回に引き続き、託児は利用せず子どもと一緒に話し合うことを選択。参加者の合意もあり、和やかな雰囲気での話し合いができた。



会場の様子



子どもと一緒に参加

⑤ 前回の振り返り

参加者が作成した振り返りシートを活用し、第1回～第2回の内容を振り返った。



第1回の振り返り(参加者作)



第2回の振り返り(参加者作)

前回の宿題であった「中池公園に屋根がないことに関して、利用者から問い合わせはあったか」について、市民協働課から中池公園事務所にヒアリングしてもらった。中池公園事務所の回答は「そのような要望は聞いたことがない」というものであった。

⑥ 話し合い	振り返りの後は、次回(12月)の発表に向けて「どんな内容を発表するか」「どのように発表するか」を中心に話し合った。その結果、下記の2項目について、発表することが決まった。 ⑥ ふれあいセンターの理想像を描く&もっと利活用するアイデア ⑦ 中池公園に屋根を設置してほしい
⑦ 出された意見	各項目で出された意見は、下記の通りである。 ⑥ ふれあいセンターの理想像を描く&もっと利活用するアイデア ・桜ヶ丘地区で実施された11/5のイベントに参加した。とても賑わっていた。夏祭りも賑わっていた。祭り、高齢者の運動教室など単発のイベントに関しては、賑わっているイメージがある。ただ、平日の空いている時の利活用に関しては、課題を感じている。利活用のアイデアを提案していきたい。 ・ふれあいセンターは、昼はお母さんとちびっこ連れ。夕方からは小学生など、利用時間によって対象を絞っても良いのでは？ ・ふれあいセンターのスタッフが高齢化しているので、若い職員を配置することはできないか。短いスパンでよいのであれば、育休中の人や自営業の人に頼めるのでは？若い人が職員にいてもらいたい。 ・ふれあいセンターの敷居を下げ、イベントやりたい人に積極的に貸し出せると良い。児童センターが使えるのであれば、託児しながらイベント利用することも可能では？ ・子育て中の人には忙しいけれど、自分たちが実現できることをやりたいと思っている。地域委員会に関わるからと言って「来てもらわなければ困る」という認識をされると若い人は関わりにくい。やれそうなときにやってもらうという関わりの多様性があると良い。若い人を動かための要員として使うのではなく、企画やアイデアを出してもらうと良い。 ・ふれあいセンターを間借りの学習塾として活用するのはどうか。 ・ふれあいセンタースタッフの対応をよくしてほしい。利用者の気持ちを伝えていきたい。現在のふれあいセンターはとても入りづらい状況。ある特定の団体しか入ってはいけないような空気が流れている。

	・地域情報を Instagram で発信してほしい。地域情報が少ない印象なので、もっと発信強化してほしい。 ⑦ 中池公園に屋根を設置してほしい ・強烈な日差しを避けられる屋根があると、ますます利用が進む ・年少用の遊具付近に屋根付きスペースがあるとよい ・幼児用遊具スペースにコルクチップを敷いてはどうか ・屋根を付けることは、大きな工事になるかも知れない。予算が関係するため難しいかも知れないが、運動会で使うような大型テントを夏場の間だけでも並べることはできないか ・東屋はあるが、背が高いので日が差し込んでくる ・水が流れる通路を作ったにも関わらず、水が流れていないのはなぜか。水が流れているだけでオアシスになる。
--	---

3.総括

具体的な提案に向けて、発表内容を 2 つに絞り込むことができた。ふれあいセンターの利活用に関しては、モデル地区を定め、今年度中に事業実施(意見交換会を開催する、事業を実施する、事業アイデアとして来年度の事業計画に入れ込む等)できると良い。

中池公園に関しては、3 人中 3 人が「屋根がほしい」と感じていた。実際の利用者も同じように感じている可能性が高く、要望に応えることで利用者が益々増える可能性を感じる。

実施報告書 3-3

1.開催概要

名称	ジブンゴト会議(第4回)子どもの遊び場 発表
日時	2023年12月14日(木) 14:00~15:00
開催場所	関市役所 7階 つなぐガーデン
参加者	3名
聴講者	桜ヶ丘ふれあいのまちづくり協議会、桜ヶ丘地域支援職員、市民協働課、中池公園事務所、関市教育委員会

2.開催内容

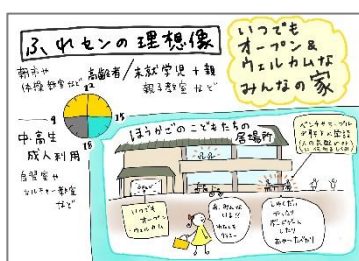
⑧ 発表	参加者が作成した資料(別添)をもとに、発表した。参加者には、小さな子どもが居たため、つなぐガーデンの広場にて託児を行いながら発表を行った。   発表の様子 託児の様子 発表内容については、下記の2項目とした。 ⑧ ふれあいセンターの理想像&もっと利活用するアイデア ⑨ 中池公園オアシス化のための3つのアクション
⑨ 発表にあたって	まず、はじめに市民活動センターから「まちづくり市民会議の歴史」を簡単に紹介したのち、発表者の自己紹介を行った。 参加者3名は、何れも市内在住者(安桜、桜ヶ丘、西部)であり、子を持つ母親であること、さらに各自の趣味などを紹介した。 その後、1回目の会議(9月16日)から4回目の会議(12月4日)まで、どのような話し合いをしたのかを振り返った。 参加者3名の共通の想いは「小学生が下校したあとに気軽に集まれる場所があったらいいな」「未就学児を連れて、地域のママ友と集まれる場所があったらいいな」というものであった。 当初は「マーゴの中に児童館があればいいじゃん!」という意見も出て

⑩ 発表内容
(抜粋)

いたが、それよりももっと地域に根付いた場所として「ふれあいセンターがあるじゃん！」ということで、①ふれあいセンターの理想像&もっと利活用するアイデアを発表することになった。

さらに、3名共に中池公園をよく利用しており、強烈な日差しを除けられる屋根があると「もっと公園の利活用が進む」という共通意見を持っていたため、併せて②中池公園オアシス化のための3つのアクションを発表した。

⑧ ふれあいセンターの理想像&もっと利活用するアイデア



ふれセンの理想像



利活用を増やすアイデア

ふれあいセンターの理想像

・ふれあいセンターは、概ね小学校区に1つあるということで「身近な存在」として、利活用できればと思っている。

・桜ヶ丘の話になるが、夏祭りや秋の文化祭は賑わっており、イベントが盛んに行われている印象があった。普段のふれあいセンターを見てみようと思ふと足を運んだが、「特定の団体のための施設」という印象があり、「ここは出入り自由なのかな」と感じた。

・ふれあいセンターが、オープンでウェルカムな感じであれば、あらゆる地域が活気づくと感じている。

・小学生を持つ親としては、放課後の子どもたちの居場所の選択肢が増えたらいいと思う。

・時間で区切って具体的な利用シーンを伝えたら良いと思う。(9時から15時は朝市や体操教室など未就学児とその親および高齢者等、15時から18時は放課後の子どもたちの居場所、18時から21時は中高生や成人利用など)

・放課後にふれあいセンターで遊んでいる児童もいるが、知らない親御

さんも多い。放課後は、公園で遊ぶという選択が多いが、屋内で安全に遊べる場所(ふれあいセンター)があるといいと思う。

・ふれあいセンターの外側にベンチや机を配置することで、子どもたちが集まりやすくなると考えている。

もっと利活用するアイデア

地域の若者どうしのつながり(日常の学習支援)

・12月7日に「地域の自慢大会」を聴講したが、洞戸地域が学習支援事業「キウイ教室」という取り組みを行っていた。中学生が小学生の宿題を見るという取り組みであったが、そのような取り組みをふれあいセンターで行えると良い。

たのしくまなんであそぶ(ご近所先生による教室)

・例えば、英語や漢字、将棋など教室は持っていないが先生として活躍できる人材が地域に潜在的にいると思う。その方々に、ふれあいセンターでご近所先生として活躍してもらったらどうか。

自分たちで居場所をつくる(自習室、私設図書館)

・子どもたちが自主的に使える自習室として開放する。自宅にある本やおもちゃなどを持ち寄って「私設図書館」のように使ったらどうか。その際に、机の形やビーズクッションなど家具に工夫があると利活用が進む。

自主性と創造性をはぐくむあそび

・調理室があるふれあいセンターでは、おやつづくりなどのアクティビティが行えるとよい。

利用方法について

・見守りを行ってくれる人が1人は居ると安心。図書館のように登録制にして、保護者の連絡先等の情報が記載されたカードを子どもに持たせてもよい。

広報について

・学校から配布されるプリントに混ざっていると、必ず目を通す。特にFacebookから情報を得ることは少ない。InstagramやLINEは、施設のファンでなければ登録しない。SNSだけの広報では、伝わりにくいと感じる。

⑨ 中池公園オアシス化のための3つのアクション



屋根、ゴムチップの舗装



水路に水を流す

⑪ 意見交換会	1.屋根 ・中池公園をよく利用するが、夏場など日除けが無くかなり暑い。帽子を着用することを嫌がる子もいる。 ・年少遊具ゾーンと奥の巨大遊具ゾーンに屋根があると、子どもたちが休める場所が増えて、もっと利用しやすくなる。 2.ゴムチップの舗装 ・年少遊具ゾーンは、芝生になっているが、ゴムチップの舗装があると安全性が上がる。現状は雨の次の日に行くと、地面がぬかるんで利用できない。ゴムチップであれば、雨の次の日も遊べるようになる。 3.水路に水を流す ・大型遊具ゾーンに、雨水排水用の水路がある。夏場に水を流すことで、子どもが水遊びできる場所になる。プールに入れないような小さな子どもでも楽しめる。水が無駄にならないように、手押しポンプの井戸を設置し、必要なときのみ流せるようにしたらどうか。 発表の後は、桜ヶ丘ふれあいのまちづくり協議会、桜ヶ丘地域支援職員、市民協働課、中池公園事務所、関市教育委員会と参加者で意見交換会を行った。
---------	---

3.総括

3 か月間かけて会議を重ね、当事者ならではの意見を発表することができた。当初の会議の回数は発表を含めて 4 回であったが、発表資料をまとめるため 1 回分追加した。発表資料は、すべて参加者が作成した。

発表当日は、ふれあいセンターや中池公園の施設管理者が訪れたため「現場に直接」アイデアを届けられたのではないかと感じている。意見交換会は、活況であった。

提案内容に関しては、各施設・各課で検討する。ジブンゴト会議は、これにて終了となるが、その後の進展があった場合は、市民協働課を通じて参加者に情報共有する。

ジブンゴト会議とは別の取り組みになるが、今回の参加者を中心に「市長との座談会」が来月開催されることとなった。